

「すばり答える

明言

深聞

本音を探る

うるま市農水産業振興戦略拠点施設「うるマルシェ」が1日、オープンする。運営を担うファームーズ・フォレスト(栃木県)は、年間150万人が来園する道の駅「ろまんちっく村」の運営や農産物の販路拡大、地域資源を生かした着地型観光の企画運営など幅広い事業を展開。「地域商社」として全国的に注目を集め。松本謙社長にこれまでの事業や今後の展望などを聞いた。

(聞き手)政経部・川野百合子)

「うるマルシェとは、農水産業の振興のための拠点施設で、コンセプトは『食を通じてうるま市を元気にするエンジン』。農水産物の販売、加工、生産者らと交流の場を提供



まつもと・ゆづる 1967年生まれ、長野県出身。89年、慶應義塾大学卒業。2007年、宇都宮市にファームーズ・フォレスト設立。道の駅うつのみや「ろまんちっく村」や栃木県アンテナショップなどを運営、地域商社として農産物直売や特産品の流通、直営事業などを幅広く展開している。中小企業診断士、6次産業化プランナーの最高段位レベル5認定登録者。

「街を超えて機能的、有機的に連携することが地域を元気にする秘訣だと思う。生産者が元気で、消費者がわくわくできる地域が魅力的。商品の出口の選択肢を増やすことで、農家や生産者の生産振興につなげ、農業全体を盛り上げていきたい」

農水産業の振興拠点に

「これまでの事業は、「宇都宮市の道の駅を中心」に、栃木県のブランディング化、地域発の商品、農産品などを専門的に売り込む地域商社として活動してきた。ただ生産を奨励しても、出口がない。地域発信型過地店」をイメージするが「目標

再生ツアーや、間伐されていない山の手入れツアーナど課題解消型の企画も手掛けてきた」

「うるマルシェの目指す姿、「道の駅や直売所」というと『通じて両者をつなげる。『6次産業化』が物を商品開発して販売するというだけでなく、場所を

通じて、生産者のファンになつてもらい、農水産物を買って応援するという持続する仕組みを作つていただきたい。来場者は年間

50万~60万人、売り上げは1億円を計画している」

「あちづくりと農業振興の拠点として期待されている。

「直売所をつくつても差別化的地」を目指している。地域産品が買えるというだけでなく、地域の課題解決ツアーや、生産者との交流や体験を通じて両者をつなげる。『6次産業化』が物を商品開発して販売するというだけなく、場所を通じて、生産者のファンになつてもらい、農水産物を買って応援するという持続する仕組みを作つていただきたい。来場者は年間

は産地から都市へといふ流れがある。地域と地域、産地と産地を結ぶ役割を果たし、新たな商流、交流を生む産地間の結びつきを強めていく。新たな商流を提示することは、生産者の選択肢が増えるということだ」

「街を超えて機能的、有機的に連携することが地域を元気にする秘訣だと思う。生産者が元気で、消費者がわくわくできる地域が魅力的。商品の出口の選択肢を増やすことで、農家や生産者の生産振興につなげ、農業全体を盛り上げていきたい」